

生徒の「よりどころ」を生かし 2年生を学校の中核へと育てる指導

時期の特徴

新しい年度が始まり、教師も生徒も慌ただしい状況。2年生は部活動の中心になり、多くの生徒が学習に対して質・量ともに十分には取り組めない状況に陥りがちだ。

指導のポイント

生徒自身によりどころや得意を自覚させる内発的な動機付けを行うことで、「最低限これだけは取り組む」という学習目標を見付けさせ、実行させる。

※このコーナーは、高校の先生方との検討会を経て制作しております。

目的別データ活用

1 2年生の位置付けを目線合わせする

……→ 図1

◎部活動、学校行事などで「2年生は学校の中核である」ということを確認した上で、多忙なこの一年をどう過ごさせるのか目線合わせが必要だ。「勉強しなさい」と一方的に言うだけでは生徒はなかなか動かないし、この時期から課題などを過剰に与え、詰め込みすぎると、3年生になってからの「伸びしろ」が生まれにくい。部活動引退後に学力の大きな上昇曲線を描くような集団をつくるため、「たるみさせない」状態を目指したい。そのために、2年生の各時期に最低限押さえておくべきテーマを図1のようにまとめ、学年で共有する。

2 2年生初めの面談で生徒の「よりどころ」を把握し、生かす

……→ 図2

◎クラス替え後の最初の面談の目標は、教師と生徒の相互理解だ。2年生の1年間をたるみさせないために、面談を通して見付けたいのが「これだけは頑張れる」という生徒のよりどころだ。多忙な2年生とはいえ、「家庭学習時間ゼロ」という状態は回避させるべき。忙しい中でも勉強に向かう経験を積ませることが重要だ。そこで「疲れていてもこの教科なら少しは勉強できる」というよりどころとなる教科を自覚させる。時間がなくて家庭学習が出来なくても仕方がないと易きに流れず、少しでもやっておこうと、もがくことが大切なのだと言っても伝えない。

対教師へのデータ

生徒の多忙さを理解し、「伸びる集団」をつくる

データを用いた指導の流れ

STEP 1

◎2年生0学期の取り組みを行っている学校は増えてきた。0学期指導で高まった意識を継続させるよう、「生徒をたるみさせない」指導を共有する

STEP 2

◎3年生で「伸びる集団」をつくるためには、どのような1年間を過ごさせるべきか、学年団で話し合い、時期ごとの指導に落とし込む(図1)

STEP 3

◎2年生最初の面談の前に、スタディーサポートの結果や図2で生徒のよりどころを見付けておく。「自分のことをよく分かってきている」という信頼感を抱かせる

STEP 4

◎新学年の生活が落ち着く5月の連休明け頃に、各生徒に面談内容を思い出させるような声掛けをし、生徒の意欲を引き上げる

図1 伸びる集団をつくるための2年生での目線合わせシート

時期	行事	指導ポイント
4月 5月	<ul style="list-style-type: none"> 始業式 中間テスト 面談 連休 高校総体予選 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の性格、学力、志望などを把握する 予習→授業→復習のサイクルの徹底を図る。1年生の指導の再徹底! スタディーサポートを活用し、学習スタイル改善の具体的なアドバイスを行う
6月	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演会 進研模試 体育祭 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生講話などを利用した学部・学科への理解を深める 生徒に現状の学力を把握させ、志望校とのギャップを感じさせる ギャップを克服するための具体的な学習法を伝え、実践させる 学校を中心として充実した生活を送っているか改めて確認する
7月	<ul style="list-style-type: none"> 期末テスト 終業式 進研模試 三者面談 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着度をチェックし、それを踏まえた夏休みの学習計画を立てさせる オープンキャンパス参加に向けて、大学比較の観点を理解させる
8月	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み 補習・講習 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの学習計画の達成状況を確認し、必要に応じて修正させる
9月	<ul style="list-style-type: none"> 始業式 志望調査書提出 文化祭 	<ul style="list-style-type: none"> 9月からのリスタートを諦めさせないために声掛けを行う 地歴・公民、理科を含めた得意科目を伸長するよう指導する 国数英の家庭学習状況の確認と、より有効な学習のための支援を行う

図2 よりどころを見付けさせるための面談シート

組 番号 _____ 名前 _____

●2年生の目標は?
(文化祭の実行委員にたて活躍する)

●好きな教科は?(とても疲れている時に、1時間勉強しなければならないとしたら、どの教科を選ぶ?)
(数学)

●得意な教科は?(最近の模試や定期テストで、自分の中で一番成績が良かった教科は?)
(国語)

●学校行事で一番楽しみにしていることや、部活動でどんなことを頑張りたいと思っているか教えてください
(文化祭)

●2年生ではいろいろな体験を通して視野を広げることも大切です。2年生のうちにこんなことを経験してみたいということはありませんか?
(夏休みのオープンキャンパスはできるだけたくさん参加したい)



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> →HOME>情報誌ライブラリ(高校向け)>生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス〈プラスαの指導〉

人間的に一番成長する時期に教師がもがいた経験を伝える

活躍の機会が広がる2年生は、生徒にとって人間的に成長する時期だ。そうした時期だからこそ、「この1年間、多様な体験を積むことが大学入試やその後の人生に生きていく」ということを教師は自身の体験から伝えていきたい。今、多忙の中でもがいていることは、必ず意味のあることなのだとして生徒に伝えたい。

学習時間が減る中でも、学校には目を向けさせ続ける

学習時間が減っていても、部活動や行事で忙しい日々をおくることは、人間的な成長につながるという意味で評価できる。一方で、ただ学習時間が減るだけではなく、学校で過ごす時間自体が減り、生活の中心が学校ではなくなっている生徒は見逃ごせない。どんな時間を学校外に求めているのか、なぜ学校から気持ちが離れているのか、面談で確認したい。

5月の連休中の自学自習が2年生としての試金石に

運動部に所属している2年生の中には、5月の連休中は毎日練習という者もいる。授業がなく、日々の予習復習の必要もなくなる中で、それでも毎日、少しの時間でも机に向かうことが出来るかどうか、生徒のその後の成長に大きく影響する。連休に入る前に面談やHRで、更には各教科の授業の中で「たるんでも、たるみきらない」ように指導していきたい。

目的別データ活用

1 担当外の教科の学習法を質問させ教師がもがいた体験から学ぶ

……→ 図3

◎教師は自分の担当教科は高校時代から得意であった場合が多く、苦手意識を持った生徒に心から共感することは簡単ではない。そこで、生徒にはあえて「数学の先生に英語の学習法を聞くというように、担当教科外の先生に相談してみよう」と呼び掛けてみる。4月の時点で学年団などに高校時代の苦手教科について聞き取りし、一覧にして生徒に配布する(図3)。苦手科目とどのように向き合ったか、教師自身の体験を踏まえてアドバイスすれば、生徒を苦手科目に対して前向きにさせるきっかけとなる。教科を超えて教師の力を結集し、生徒を学習に対して前向きにしたい。

2 生徒に応じた先輩データの活用で、「挽回可能」だと伝えていく

……→ 図4

◎2年生で部活動の中心となり、生徒はますます多忙化する。そんな状況の中で、「このままで大丈夫だろうか」と悩んでいる生徒は少なくない。担任が学校の中心となって活躍することを評価しても、学習への自信を失ってしまう生徒も始まる。そこで「君たちの先輩も通ってきた道なのだ」「たるみきらずに、無理し過ぎずに、これだけはやるという目標を決めよう」と具体例を示しながら、生徒のモチベーションを高めたい。各生徒の状況に合致した先輩データの活用で、多忙な高校2年生の毎日を自信を持って過ごせるよう生徒を支援したい。

対生徒へのデータ

学年団の教師や先輩生徒の体験を活用し、もがき続ける2年生を育てる

データ活用の流れ

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4
◎生徒が2年生になって抱えている不安や苦手だと感じている教科科目を面談で把握する	◎可能であれば学校全体の教師(少なくとも学年団の教師は全員)が協力し、高校の時の苦手科目を洗い出し、図3を完成させる	◎図3を生徒に配布し、生徒に「この教科が苦手ならば、この先生に話を聞きに行ったらどうだ?」など声掛けを行う	◎面談で把握した生徒の悩みに応じて、図4に掲載されているような先輩データを示していく

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも併せてご活用ください! 右のウェブサイトをご覧ください。

- 2009年12月号「2年生0学期」を見通した1年生2月までの学習習慣の定着」
- 2009年6月号「2年生夏の進路意識向上と生活習慣の確立」
- 2010年12月号「目標とのギャップを埋める2年生0学期への意識付け」

Benesse® 教育研究開発センター

<http://benesse.jp/berd/>

生きたデータの徹底活用 クリック!

HOME→情報誌ライブラリ(高校向け)→
生徒指導・進路指導ツール集をご覧ください

加工可能な資料が
ダウンロードできます!

生徒指導・
進路指導ツール集

ウェブサイトから

ダウンロード!

図3 苦手克服のための教師プロフィールシート

名前	担当教科	学年など	高校時代に 苦手だった科目	どんなふうに勉強したか	結果
●●先生	数 学	2年3組担任	英 語	日本語訳が出ている短編小説のペーパーバック(中学生向け)を1冊買いました。出来るだけ辞書を引かないで、声に出して最後まで読んでいきました。その後、気になった表現を辞書を引いて読み直しました。	成績はすぐには上がりませんが、知っている単語が増え、英語ならではの文章構成にも慣れて、英語の授業が楽しくなりました。成績も少しだけ(?)上がりましたよ。(詳細データを知りたい人は、数学科室までどうぞ)
■■先生	保健体育	進路指導部	英 語	英語の文法の問題集(薄いもの)を買って、例文と問題を覚えるくらい繰り返しました。仮定法や時制など文法構造が分からなくてもひたすら繰り返しました。	文法の中で確実に得点できる分野が少しずつ増えて、次第に勉強が苦にならなくなりました。2年生の時300人中280番だった成績が、3年生2学期には30番台まで上がりました。
▲▲先生	理 科	2年1組担任	数 学	本当に苦手だったので毎日勉強する気がなかったんです。でも、数学から逃げたままでは教師になれないと思い、日曜日の午前中3時間だけ決めて集中し、教科書の例題と基礎問題集を解きました。	数学への苦手意識は結局克服できませんでした。が、センター試験では6割くらい得点できました。

図4 先輩データから見る2年生の悩み克服シート

	部活動	2年生の頃の悩み	どうやって克服したか	ポイント
A先輩	サッカー部	練習で毎日ぐたぐた。家まで1時間かけて帰った頃には疲れもピークに。眠くて1時間も勉強できない状態でこのままいいのかと不安になった	運動部に入っている友だちに聞くと、朝早く学校に行って勉強したり、電車の中での時間を活用したりしていることが分かったので、自分も試してみた。部活動後、疲れきって机に向かうよりも効率的に勉強が出来た	ちょっとした「スキマ時間」を使う
B先輩	なし	これといって理由はないが、2年生になってからなんとなく勉強へのやる気がなくなりました。家に帰ってもテレビやゲームの時間だけが増えた	先生に相談すると「学校で勉強してから帰ってはどうか」と言われた。自習室に寄ってみると、同じように家では勉強が出来ないからと残っている友だちがいたので、一緒に頑張ることが出来た	学校に残って仲間と勉強する
C先輩	水泳部	文化祭の実行委員と部活動の練習が重なって、7月から10月までは本当に忙しくなりました。勉強する時間が一気に減ってしまってすごく不安になった	毎日の勉強時間が減った分、日曜日にまとめてやろうと思った。特に英語と数学の予習に時間を割いた	1週間単位で勉強時間を確保する



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ(高校向け) > 生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス〈プラスαの指導〉

連休明けをめぐり学習法を見付けさせる

2年生になっても「この教科の学習の仕方が分からない」と悩む生徒は少なからずいる。そうした生徒には、まずは自分で取り組み、自身に合った学習方法を見付けさせることが必要だ。面談や日々の声掛けの中で学習への取り組み状況を聞きながら、5月の連休明けをめぐり学習スタイルの確立を目指す。2年生の1年間をたのみさせないためにも、自分なりのスタイルを探させたい。

1週間単位で目標を立てさせる

運動部に参加する生徒の中には、試合前で忙しくて「毎日○時間の家庭学習」といった目標を達成できない生徒もいるだろう。そのような生徒に対しては、1日ごとの学習時間にこだわらずに「1週間で○時間の家庭学習」と週単位でスケジュールを管理させる。「週末などを使って、目標の学習時間に近づけばよい」と考えさせるようにすると生徒も取り組みやすい。

生徒の2年生での変化を保護者に伝える

2年生になると生徒の保護者に対する態度も変わってくる。1年生の頃は学校での出来事を詳しく話していたのに、2年生になるとあまり話さなくなり、不安に思う保護者も出てくるだろう。2年生が学校の中核として活躍していること、生徒が行事や部活動などで多忙になりながらも、もがき成長していることなどを伝え、理解を促していきたい。